

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) ITインフラをインテックが担当

昨秋、名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) のITインフラ設計から構築、運営サポートまでをインテックが担当した。

8000人を超える会議来場者が予想され、また、3週間という長期にわたる大規模な国際会議を支えるため、ITインフラには次のような内容が求められました。

- 会議来場者がストレスなく利用できるインターネットアクセス環境
- 館内の会議室を網羅する電話内線網と電話機、NTT 契約回線の提供
- 必要なすべての場所への有線LANポートの配備
- 館内のほぼ全域をカバーする無線LANアクセスエリアの提供
- 各会議用途に応じて仕様が異なるネットワーク、PC450台のセットアップ

使ったLANケーブルは45km

日本政府や生物多様性条約事務局、報道局や警備システムなどとの複雑な調整が発生する中、設計に1カ月半、設営に2週間という限られた時間で行き組み、無事10月8日の開催初日を迎えました。会場規模が大きいことから、使用したLANケーブルは45km、電話線は16kmにも及びました。

また、一般的なオフィスのインフラ構築とは異なり、事務室への回線敷設だけでなく、中庭のTV中継車への回線敷設なども必要でした。その上、有線だけでなく、無線アクセス環境も



ITサポートは 日本人の「きめ細やかさ」で

カスタマーサービスセンター
朝倉 梨乃

会場のITサポートスタッフとして、早番と遅番に分かれ7:30から23:30まで「PCが無線LANにつながらない」、「プリンタの調子が悪い」などといった問い合わせ対応を行いました。

英語圏以外からの参加者も多かったため、スムーズに対応できず悔しい思いもしました。そんな時は、ジェスチャーや紙でやり取りして何とか理解しようと努力しました。持ち込まれた端末が英語以外で表示されるなど戸惑うこともありましたが、日本訪問が初めて



必要となる複雑かつ大規模なネットワークでした。

英語技術者を集結しITサポート

会議がスタートしてからは、構築したITインフラ環境のサポート・メンテナンス担当として約10名のインテックスタッフが常駐し、運營業務に携わりました。

会議の進行状況により急にレイアウト変更が決定されることも多く、また議事の進行を妨げてはならないなど、迅速で柔軟な現場判断、行動が要求されました。なかでも、英語対応が必要なサポート業務は、IT環境に不慣れな国々からの参加者も多いことから積極的かつ丁寧な対応で高い評価を受けました。

当初の予想を超える1万5000人が来場し、会議場運営は成功裡に終了しました。インテックは大規模な国際会議のITインフラ構築で得たノウハウを生かし、今後もお客さまに提供していきます。



の方もいらっしゃったので、世界に誇れる日本人の「きめ細やかさ」を感じていただけるよう、どんな問題に対しても真摯に対応するよう心掛けました。

「この間はありがとう!」と声をかけてくださる方も多く、サポートが私たちの任務とはいえ、直接感謝の言葉を頂けるとこれからも頑張ろうと思えることができました。

様々な言語が飛び交う環境で、英語で仕事をするのは大変チャレンジングであり刺激的な経験でした。この経験を生かし、さらにグローバルなプロジェクトに挑戦していきたいと思っています。



インテックのスタッフが英語でITサポート